

第2回 古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会

- ・日 時：平成27年2月10日（火）19時～21時30分
- ・場 所：古賀市役所 中会議室
- ・傍聴者：3名
- ・出席者
 - ・委員（名簿順・敬称略）：河村、二宮、矢部、清水、柳武、篠崎、池端、高村、今村、吉田、大神、横大路、本田、中村、坂本、星野、片田、則元、大谷、戸田、木庭、笠井、多田隈、櫻井（計24名） ※欠席者：水田、宮本、谷口、保井、福岡、最所（計6名）
 - ・事務局：総務課長、地域コミュニティ室長、地域コミュニティ係長、地域コミュニティ係員
 - ・ファシリテーター：村田、今井（（株）エム環境デザインシステム）
- ・配付資料
 - 資料1：策定委員会の進め方
 - 資料1－2：策定委員会開催日程及び会場（予定）
 - 資料2：古賀市の現況
 - 資料3：古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会委員一覧H27.2変更版
 - 資料4：古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会委員一覧（自己紹介メモ用）
 - 資料5：自治基本条例だより第1号
 - 資料6：第1回古賀市自治基本条例（仮称）策定委員会会議録
- ・会議内容：以下の通り

1. 開会

事務局：

（開会あいさつ、配付資料確認、欠席委員確認）

ファシリテーター

（資料5「自治基本条例だより第1号」で第1回策定委員会の振り返り）

「よくわからない」というのが正直なところだったかもしれないが、新しいものをつくるにあたって、最初から答えが用意されているのではないというところが重要。色んな立場や世代の委員さんが30人集まって、どんな進め方をしていくかについては、最初の3回の委員会を研修として位置付け、ウォームアップも含めて皆さんと考えながら、第4回での本格スタートに向かっていきたい。

（今回のプログラム（進め方の概略）の説明）

2. 策定委員会の進め方について再度確認します

事務局：

（前回出された質問等を受け、資料1「策定委員会の進め方」、資料1－2「策定委員会開催日程及び会場（予定）」をもとに、委員会の進め方、役割、スケジュール案、日程・会場について説明）

3. 「古賀市ってこんなまち」～今後の話し合いの土台づくり

ファシリテーター：

古賀市というのはこんなまちです、ということをもとめたものを事務局の方から話題提供していただき、その後、皆さんからの質問や追加の情報などを出していただきたい。

事務局：

私達、市職員が古賀市のことを全部知っているわけではない。皆さんは色々な活動をされているので、私の話の後、ぜひ皆さんからも「こんなこともある」ということを教えていただきたい。

（資料2「古賀市の現況」について、パワーポイントのプレゼンテーションとともに話題提供）

ファシリテーター：

ここですぐに質疑応答に入っても手が上がりにくいと思うので、プログラムを少し変更して、グループでお名前だけ自己紹介し、今の「古賀市ってこんなまち」について情報交換等していただき、その上で質疑応答や皆さんから情報を出していただく時間をとることとしたい。

（グループで自己紹介、情報交換）

ファシリテーター：

グループの話し合いで、こんな話題で盛り上がっていたとか、こんな疑問が出ていたということそれぞれのグループからお話しいただきたい。

前回、条例を白紙からつくるという話をしたが、真意はよそにたくさんある事例を参考にしているのではないということ。皆さんの足元には、これまでの活動や思いや考えてきたことなどがあり、それらはこれから考える条例のもとになる。そういう意味ですでに白紙ではないとも言える。皆さんの足元から条例のもとになるものを出していただくようとしている。

1班：

この班は、古賀市外に通学している人、市外に通勤している人、古賀に引っ越した人がいる。その中で、3月に市が主催するウォーキング大会のボランティアを長くやっている人がいて、回を重ねるごとに市外からの参加者が増えているとの話があった。民間のスポーツ施設に行っている人からも市外から来ている人が多いと聞いた。プレゼンの中でも古賀市に働きに来ている人が1万何千人もいると聞いて、古賀市は色々な楽しみがある場所だといったことを話していた。

質問としては、プレゼンにあった古賀市の総合計画や歴史などを、もっと知りたいという時、どこで何を見ればいいのか紹介してもらえるとありがたい。

事務局：古賀市総合振興計画も観光や歴史の情報はすべて古賀市のホームページに掲載されている。総合振興計画の冊子があれば、皆さんにお配りしたいと思う。歴史、観光、特産品についてはホームページに載っているの、ご関心があれば、ぜひご覧いただきたい。

2班：

ここで一番盛り上がったのは、交通利便性が良いわけではないという話。市の中でも犬鳴山系は

広くて、そこに住んでいる人から「こんなに交通の便が悪いところはない」という話がたくさん出てきた。企業をやっている人や遠くへ行く人には便利がいいかもしれないが、実際、古賀市では車がないと生活できない。議長がよく「自前の交通網を」ということをフェイスブックなどに書いているが、そういうことなのではないか。

3班：

何か特に話題になったというより、それぞれがまちづくりとどんな関わりがあるかという話をするという形に結果的になった。その中で、「知らなかった」とか「そんなことがあるのね」ということが出たりして、事務局のプレゼンよりもう少しくわしい話も出てきた。

その中で、部活サロンに出ていたとか、こがっち検定でがんばっているとか、夏祭りでビールを売っているとか、アダプトプログラムをやっているとか、今はまちに深い関わりがないのでどうやって関わっていけるのかな？というのがこの委員会で見えてくるといいなといった話があった。

4班：

交通の便利がいい。しかし便利がいいばかりに、人がたまらない、通過点になっている。福津や新宮の大型ショッピングモールに行く通り道のようになっていて淋しい、ゴルフ場の話も、8年に1度の全日本プロなどで有名選手がほとんど集まってもホテルや気の利いた割烹（飲み屋）がなく、試合が終わったら福岡に行ってしまう。古賀はいいところもあるが、人を寄せ付ける魅力に欠けるところが多いという話をしていた。

5班：

話が盛り上がる途中だったが、共通の意見は、今日のプレゼンの内容は、住んでいても気づかない情報がけっこうあったということ。その中の、若者達が集まるCOSMOXというのは初めて聞いたし、住んでいてもなかなか情報が入ってこないという感想があった。

条例については、白紙の状態からというのが頭にあって、どんなふうにつくっていくのだろう？と。我々仕事をしている立場からいえば、ベンチマークというか、いろいろ他の事例等を調べた上で、欠けているものや必要なものを加えていいものをつくるということをしてきた。そういう意味で、どういう進め方でつくっていけばいいのだろう？という心配が出ていた。皆さん、いいものをつくりたいという気持ちがある反面、不安もあるというところ。

6班：

古賀市には運動施設がいろいろある。私の息子がサッカーをやっている関係もあって、住み良いところだという話をしていた。盛り上がったのは、舞の里公園で犬や猫のフンが多いので子どもが遊びにくく、どうにかならないかという話。

4名のメンバーは、みんな愛市精神が旺盛で、古賀市の悪い所という話が出なかったが、プレゼンにあった「時代の潮流・課題」の中で、市としてはどのへんを一番力点を置いて改善しようと考えているのかを聞きたいと思った。

最後は、難しく考えない、ということで終わった。

ファシリテーター：

先程のプレゼンの中の7項目の中で、市として「特に今はこれ」というものはあるのか。

事務局：

一つひとつの課題をマスタープラン（総合振興計画）に掲載しているが、その中に（前期基本計画）「重点プロジェクト」というのを記載している。重点プロジェクトには「地域経済活性化プロジェクト」、「安全・安心プロジェクト」、「子どもすこやかプロジェクト」、「健康づくりプロジェクト」、「活躍支援プロジェクト」があり、政策実現のためのプロジェクトとして位置付けている。

ファシリテーター：

市の課題については、今後、自治基本条例の検討を進める中で、市としてどう考えるかということだけでなく、市民も一緒になってどう解決をしていくかも含めた話ができればと思う。

また、5班からは条例のつくり方について、「白紙」、「ベンチマーク」といった話もあった。

全国約300市町村に自治基本条例がすでにあるという話はしているが、先例がある場合は、それらを分析して、その上でさらに良いものをつくっていくというやり方は確かにある。

もし皆さんが、よその自治基本条例をホームページなどで参考に見てみたいという場合は、条例ができた後、どんなふうに使われているかをよく見ていただきたい。目立つ所にリンクがあるとか、自治基本条例をどう扱っているかなど。一生懸命条例をつくったところでも、ホームページに関連情報が見当たらないようなところもある。自治基本条例はつくるのも大変だが、条例ができてからが本当のスタートとも言える。できた後、どうしているかを見ていただきたい。

もう一つは、すでにあるものを見ようと思っても、条例の「条文」の形になっているので、それを皆さんが見てもなかなかピンと来にくいかもしれない。条例は法律の一種なので、法律の形式で書かれている。5月にアドバイザーとして来ていただく予定の松下啓一先生（相模女子大学）はよく「条例づくりは条文づくりではない」とおっしゃっている。条文をつくるよりも中身をつくるのが大事だということ。市民が集まってこういう条例をつくる時は、市民が市民の言葉で条例の中身をしっかりとつくり込むことが大事で、法形式に合わせるのは行政の人に任せてもよいくらいのことをおっしゃっている。

ベンチマーク（先例から見た現在の水準）ということ言えば、条文だけでなく中身まで深く掘り下げて見ていくことはあるかもしれない。特徴ある内容をつくっている事例については、検討内容に合ったものをその都度出していく可能性はある。しかしあくまで「よそではこう。古賀市ではどうしますか？」という問いかけになると思う。

ファシリテーター：

データがある時、それをどう読むかということはある。例えば、夜間人口（住民）は多いが昼間は人が少ないということもある。古賀市の場合は、働きに出る人は多いが、逆に地元で働いていたり、外から働きに来ている人もいる。

昼間、古賀市に働きに来ている人は、企業活動などで古賀市の経済を支えている人だが、税金は住んでいる市に払っている。住んでいる人が減れば税収は減るし、企業もずっと右肩上がりとは限らない。税収が減っていったらどうするかということ、市民自身が考えたり、公共施設の維持が大変になった時などに市民みんなの知恵を出したり、市民の暮らしの発想から新しい考えを

出したりする必要があるのではないか。それを市民が考えるためには情報が大事なので、今回のようにみんなが集まった時に情報を出して考えると、色々な知恵があるのではないか。皆さん色々な活動をしているので、もっと魅力ある古賀市にしていくために、まちづくりや行政の仕組みをつくっていけるかもしれないと思った。今ある宝をもっと磨くといいと思う。

(休憩)

4. 自己紹介・パート2：テーブルを移りながら委員さん同士、お互いを知ろう

ファシリテーター：

(進め方の説明、以下①～③の手順で自己紹介・パート2を行った)

- ①「自己紹介カード」の記入
- ②1名を残してテーブルを移り、最初と違うメンバーと自己紹介
- ③1名を残してテーブルを移り、さらに違うメンバーと自己紹介

ファシリテーター：

今回、グループでの自己紹介だけでも多くのことが得られたのではないかな。それは委員さん一人ひとりがものすごい情報をお持ちだから。「人＝情報」ということと思う。また、各委員さんが形は違えど、古賀のことを思い、考え、様々な関わりを持っていて、それぞれご意見を持っておられることがお互いの聴き合いを通じてお分りになったと思う。皆さんの思いや意見や問題意識や経験などを出し合っていくと、共通するところから、まちづくりに役立つ仕組みにつながってきたり、だんだん「まちのルール」のような形になっていくのではないかな。

今日は何より、委員さん同士、お互いに色々な方がいることが分かり、楽しかったと思う。

次回は、3回の研修の最後として、自己紹介的な要素も入れながら、楽しく話し合って成果を出すということまでやりたい。

5. おわりに

事務局：

(第3回策定委員会日程の確認…3月11日(水)19時から。会場：サンコスモ古賀 201・202)

委員：

(「まちの部活サロン」発表会の案内…2月15日(日)14時から。会場：リーパスプラザ)